

季節のトピックス暦について*

北 村 幸 房**

日本のように気象が複雑で四季の変化に豊んでいるような国は少ない。冬季はレールにヒビ割れが入るほどの極寒になり、よいどれ天使が路上で凍死することも珍らしくない。いっ方夏季はアスファルトが解けたり、セルロイドや化学薬品が暑さで自然爆発するような猛暑になる。また毎年起る雨・風・雪・雷等に起因する気象災害も大きく、人的被害だけでも多い年は5,000人、少ない年でも500人を下らない犠牲者を出している。

このような気象が社会へ与える影響を最もよく知らせてくれるものは新聞である。筆者は新聞記事から気象に関係した出来事を拾って、いつ・どこに・どんな事が起きやすいか一見してわかるような季節のトピックス暦を作ってみた。

調査の方法としては、東京にある五つの新聞社(朝日・日本全体)

種 目	現 象
初霜・初雪 寒さ	初冠雪, 初霜, 初雪, 初氷 寒さのおとずれ, 寒波襲来, 低温の現われ, 寒さの盛り, 水道管破裂, 凍死, レールにヒビ割れ, 作物の被害
スキー・スケート	スキー・スケートの始まり, 大雪でスキー場にぎわう
大雪	大雪, 吹雪, ダイヤ混乱, ラッセル車出動, 暴風雪, 雪の事故
季節はずれの暖さ	暖冬現象, 梅・桜の不時咲, 季節はずれの高温
火事	強風で火事, 山火事
濃霧・濃煙霧	濃霧・濃煙霧の発生, 交通・船舶・航空機の事故
流氷	流氷接岸
なだれ	なだれ, なだれの事故
梅の開花	梅の開花
桜の開花	桜の開花, 満開, 花吹雪
雪しろ洪水	雪解け河川の増水, はん乱, 電力制限解除

毎日・読売・産経・東京)が発行した朝刊と夕刊から、気象に関係した記事のスクラップブックを用い、昭和28年から33年までの6年間について、ひとつの気象に関係した記事をひとつの現象として、1枚のカードにその月日と地方名および記事の見出しをわかりやすく記入した。そしてこのカードがそのままホールソートカードとして使用できるように19個の孔に起日・地方名・現象の種目をそれぞれ符号化してせん孔した。

地方は北海道・東北・北陸・関東・中部・東海・近畿・中国・四国・九州の10地方の外に、東京と全国を加えて全部で12地方に区分した。

作成したカードは約2,000枚であるが、同じような現象は一括して次のような種目に分類した。

種 目	現 象
季節はずれの雪	おそ雪, 農作物の被害
霜害	晩霜, 霜害
梅雨	入梅雨, 梅雨明け, 梅雨前線の活動
暑さ	高温の現われ, 暑さの盛り, 自然発火や爆発, アスファルト解ける, レールが曲る, 水・氷の使用最大
海の遭難	波にのまる, ヨットやボートの転覆
台風襲来	台風接近, 上陸, 風水害, 高潮, フェン現象で火事, 塩害
レクリエーション	花見, 休日の行楽地にぎわう, 登山, 海水浴, ハイキング, 紅葉狩, 運動会
大雨	豪雨, 長雨, 土砂崩, 落盤, 山崩, 浸水, 河川はん乱, 交通事故
雷	雷雨, 落雷, 降ひょう, 浸水, 停電, 感電死, 作物被害, 交通事故
台風発生	台風の発生
渇水・日照り	干梅雨, 水道制限, 断水, 電力制限, 農作物の被害, 日照り, 火事
山の遭難	暴風雨で登山者カン詰, 遭難
暴風	交通事故, 船舶の遭難, 建物倒壊, 通信線の切断, 竜巻, 施風

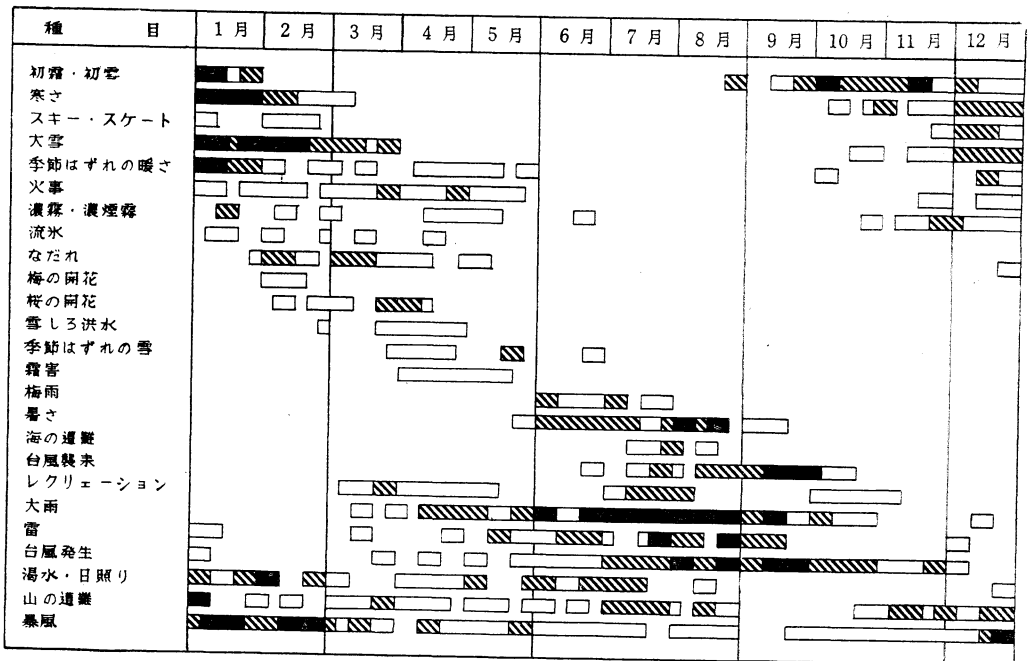
* A Calendar of Meteorological Topics

** Yukifusa Kitamura, 気象序統計課

(東京地方)

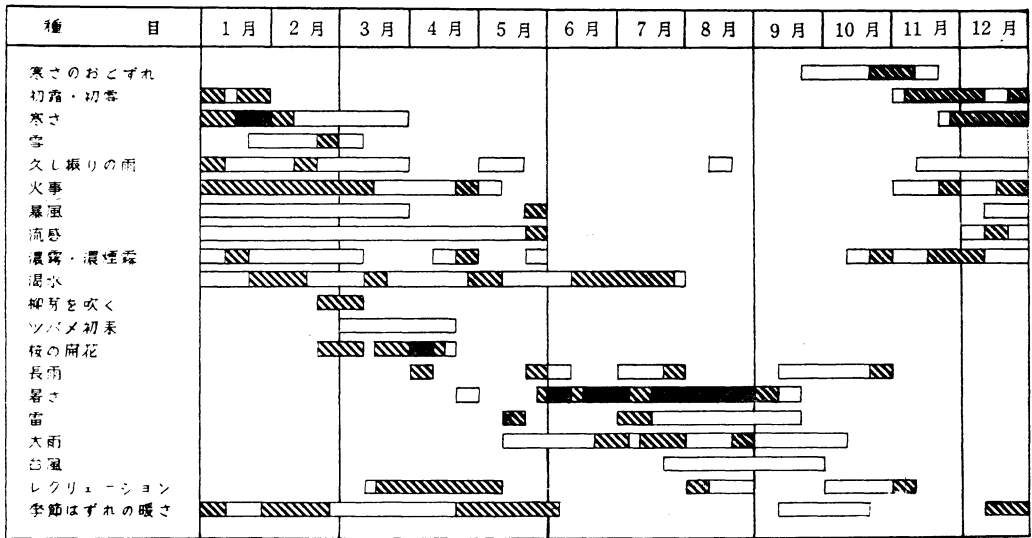
種 目	現 象
寒さのおとずれ 初霜・初雪 寒さ	合・冬オーバー着用, 紅葉, 落葉 郊外に初霜, 初氷, 初雪 低温の現われ, 寒さの盛り, 水道管 破裂, 凍死, お堀に氷張る
雪	大雪, 都電にラッセル車, 雪の交通 事故, 道路でスキー
久し振りの雨	久し振りの雨, 自動車事故, 電力・ 水道の制限解除
火事	強風・乾燥による火事
暴風	突風・強風による建物倒壊
流感	流感の発生, 休校
濃霧・濃煙霧	濃霧・濃煙霧の発生, 交通事故, 航 空機の運休
渇水	干梅雨, 貯水池減水, 日照り, 電力・ 水道の制限
柳芽をふく ツバメ来る	銀座の柳芽をふく, 春雨 ツバメの初来

種 目	現 象
桜の開花	不時咲き, 開花, 花見, 花吹雪
長雨	春の長雨, 入梅雨, 梅雨明け, 秋り ん, 浸水
暑さ	高温の現われ, 暑さの盛り, 薬品の 爆発, レール曲る, アスファルト解 ける, 水・氷の使用最大, プール満 員, 日射病・日本脳炎発生
雷	落雷, 降ヒョウ, 停電, 交通事故, 浸水, 感電死
大雨	浸水, 河川はん乱, がけ崩, 交通事 故
台風	台風襲来, 風水害, 交通事故
レクリエーション	ハイキング, 行楽地にぎわう, 海水 浴客の満員電車, 運動会
季節はずれの暖さ	季節はずれの高温, 小春日和, 暖冬



注 出現頻度は旬間4回以下を□, 5~7回を▨, 8回以上を■とした。

季節のトピックス暦 (日本全体)



(注) 日本全体と同じ 季節のトピックス暦 (東京地方)

季節のトピックス暦には季節の変化が明瞭に現われているが、日本全体のものでは現象の現われる期間が長く、山の遭難や暴風などは1年を通じてどの季節にも現われるが、地方別のものは東京の例でもわかるように、季節の変化や気象がその地方に与える影響がよく出るよ

うである。

最後にこの調査をご指導下さった統計課長斎藤鍊一博士に感謝します。

気象の英語 (34)

36. shade と shadow

両方とも「かげ」であるが、shade と shadow は、はっきり区別されている。A. C. D. によると
 Shade indicates the lesser brightness and heat of an area where the direct rays of light do not fall: the shade of a tree. It differs from shadow in that it implies no particular form or definite limit, while a shadow often represents in form or outline the object which intercepts the light: the shadow of a dog.
 つまり、物の形の出ている「かげ」は、shadow で、日向に対する日かげの「かげ」は shade である。おもしろいことに、漢字では区別されていて、shade は陰、shadow は影に対応する。the shade of a tree は「こかげ」で、the shadow of a tree は木の形をうつした「木の影」である。

37. habit と custom と practice

「習慣」と訳されるが、A. C. D. によるとつぎのよう

な相違がある。

Custum, applied to a community or to an individual, implies a (more or less permanent) continuance of a social usage: it is the custum to give gifts at Christmas time. Habit, applied particularly to an individual, implies such repetition of the same action as to develop a natural, spontaneous, or rooted tendency or inclination to perform it: make a habit of reading the newspapers. Practice applies to a set of fixed habits or an ordered procedure in conducting activities: it is his practice to verify all statements, secret practice of a cult.

つまり、社会的な習慣は custom、個人的な習慣は habit、事業的、活動的な習慣は practice と使い分けるわけである。

(有住直介)